



2021.6.8

◆中間考査を終えて◆

今年度初めての中間考査が終了しました。返ってきた答案を見て、どんなことを考えましたか？点数ばかりを気にしていませんか？例年、合計点数を計算して一喜一憂（喜んだり心配したりすること）している姿を多く見かけます。大切なのは、自分が何を間違えたのか、ケアレスミスだったのか、自分に足りなかったものを知ることです。すべてを一気に克服することは簡単ではありませんが、テストは受けておわりではないのです。間違えた問題をもう一度解いて、今から次のテストにつなげましょう。

また、返却時に生徒手帳に得点を記入している人もいました。一年間続けると自分の得点の推移がわかることは、ふりかえりにも役立ちます。今だからできることを、コツコツと続けていきましょう。

◆ほんの少しのことだけど・・・◆

先日、オンライン看護体験の申込がありました。その書類提出の際、次のようなことがありました。

- 「希望理由の欄が5行あるのに、2行しか書かれていない」
- 「誤字を二重線や黒塗りで訂正してある」
- 「上から重ねて書いてあり（二度書き）読みにくい」
- 「志望校名が略されている（正式名称で書かれていない）」
- 「申込用紙がシワシワになっている」



このような書類を受け取った相手（今回は、病院の担当の方）は、どのように感じるでしょうか。「どんな気持ちで臨みたいのか理由を詳しく知りたいのに（たった二行？）」「新しく書き直すこともできないくらい忙しいのか？」「書き直す手間を省いたということは、その程度のやる気なのか？」など、いろいろ想像できます。書類の内容だけでなく、書き方や扱い方のせいで、不信感につながるケースも大いにあるのです。

もちろん、人間誰しも間違えることはありますし、そんなときのために「修正テープ」や「フリクションペン」など、便利な筆記用具がたくさんあります。しかし、それらを使用することで、受け取る側にどう思われるかを考えてみましょう。そもそも、「修正する」という行為は、本人自筆ではなく他の人による「改ざん」を疑われてしまうことにもつながります。「修正する」こと自体が、マナーとしてなぜ失礼に当たるのか、どんなイメージを与えてしまうのかを知っておけば、便利な筆記用具に頼ることのリスクも自ずと理解しやすくなるでしょう。少しの手間を惜しまず、相手の立場に立って、丁寧な対応を心掛けていきたいものです。特に3年生の皆さんは、志望先に「入学願書」や「志望理由書」など、書き損じの許されない書類を提出する機会がやってきます。その他にも、自分以外の誰かに提出し、読んでもらう文章や確認していただく書類というのは、自分のノートとは違います。何のために書くものなのか、その意味を考えて、誠意をもって対処できる人になってほしいものです。

ほんの少しのことだけれど、相手にとっては大きな悪印象となり、評価されてしまうのが現実なのです。…と、いうことは、逆も然り。普段から相手に対する細やかな心遣いや、意味を考えて行動していれば、意識しなくても大事な場面でそれが発揮され、好印象を持っていただけるということです。

今回、書類に不備があった皆さんには、もう一度書類を書き直してもらいました。些細なことではありますが、このような間違いを正していく機会こそが、イチカシの皆さんにとって貴重な学びの場になると痛感しました。一緒に頑張りましょう。

「サービス」とは相手が見える（気付く）前提でやるもの、「おもてなし」は見返りを求めないホスピタリティの精神でやるもの。

（鎌田洋『ディズニー おもてなしの神様が教えてくれたこと』より）